

◆ 環境負荷低減機能

【基本方針】 新エネルギー・省資源に対応した、
経済的・合理的な庁舎

◆ 経済的・合理的機能

資料2

1. 自然エネルギーを活用する庁舎

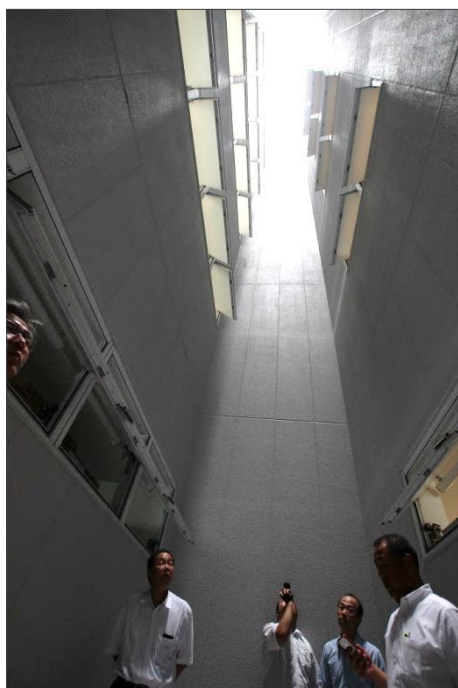
新庁舎は、自然エネルギーを積極的に活用し、省資源・省エネルギーの推進を図ります。

(整備方針)

- 自然採光や自然換気の積極的な導入を図ります。



↑ 反射板により太陽光を室内に積極的に取り込んだ例



→ 建物内部に“風の通り道”を設け、自然換気（自然通風）を促進し、空調使用期間の短縮を図っている例（甲府市役所）

- 地下水の涵養やヒートアイランド現象の抑制に効果がある透水性舗装や緑化舗装について、駐車場や歩道等への導入を検討します。

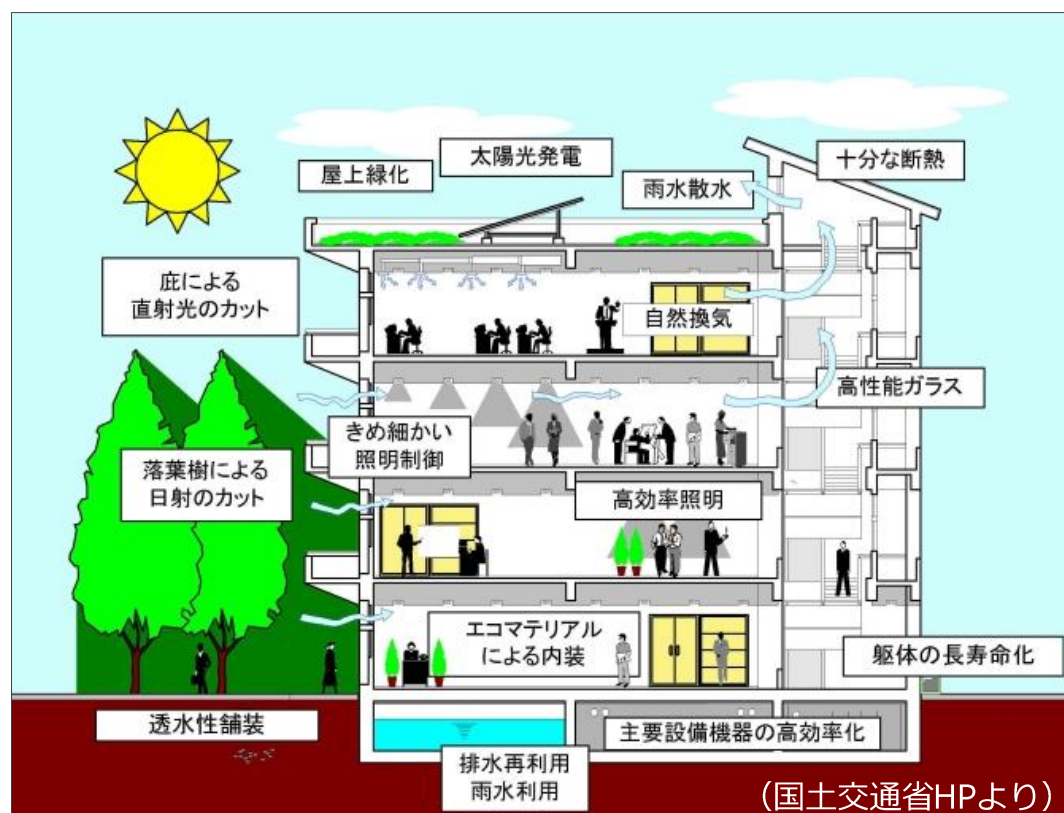


2. 新エネルギー・省資源化を考慮した庁舎

新庁舎は、新エネルギーの積極的な活用と省資源化を図ります。

(整備方針)

- 太陽光発電設備の設置を検討し、再生可能エネルギーの導入を図ります。
- 節水型便器を導入します。
- 高炉セメントや再生砕石等のリサイクル建材や環境負荷の少ない建材（ロビー等への地場産木材等の利用など）の積極的な採用を図ります。
- 南洋材を用いた型枠削減のため、デッキプレート型枠等の採用を検討します。
- 雨水貯留槽を設け、トイレの洗浄や、植栽への散水等への活用を検討します。



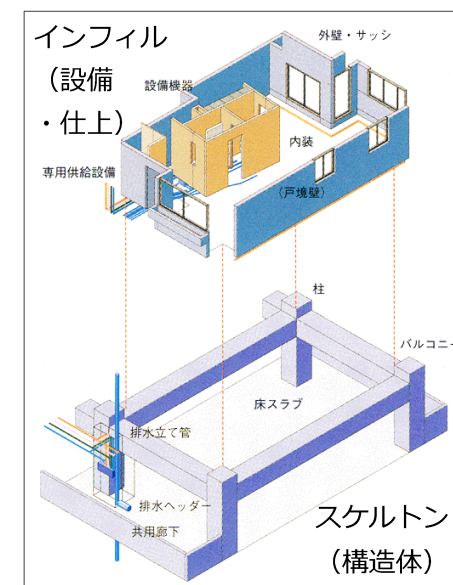
建築物の計画から建設、運用、廃棄にいたるまでのライフサイクルを通じた環境負荷の低減に配慮した庁舎【グリーン庁舎】のイメージ (国土交通省HPより)

3. 将来の様々な変化に柔軟に対応でき、 建設コストやランニングコストが縮減できる庁舎

新庁舎は、将来の行政需要の変化に柔軟に対応できる可変性を備え、適正な建設コストやランニングコストでの運営を図ります。

(整備方針)

- 維持管理や修繕・改善がしやすく、計画的な設備の更新などにも配慮した建物構造とします。
- 具体的には、「スケルトン・インフィル工法」等を採用することで、設備機器等は耐用年数に応じて更新し、建物全体の長寿命化を図ります。
- 執務室のレイアウトはオープン型を基調とし、組織改編や職員数の変動による改修工事を最小限とする設えを導入します。



事例：オープン型レイアウト (燕市庁舎)

- 近年の建設資材物価動向を見極め、適切な工法を選択します。
- 外壁、窓ガラス等の断熱性能の確保や庇等の設置により、空調負荷の低減を図ります。
- 耐久性やメンテナンス性を考慮し、設備機器や仕上げ材等を選定します。
- LDE照明等、高効率設備機器の導入によりランニングコストの低減を図ります。